

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

企業の概要

企業・団体名	株式会社ニット	本社所在地	東京都
業種	サービス業	総従業員数	322名
事業概要	バックオフィス系の業務(人事、経理、営業事務、資料作成など)をオンラインでアウトソーシングとして請ける「HELP YOU」の展開。業務仕分けコンサルティング、テレワークの研修・コンサルティングも実施。		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	マニュアルにて規定・整備
テレワーク担当部署	全部署
テレワーク対象者	全社員
実施者数	322名
平均実施日数	月16回以上(概ね週4回以上) ※フルリモート組織のため毎日実施

テレワークの導入・拡大の経緯

5年前のサービス立ち上げ当初より、テレワークを前提に事業を推進し、現在も、322人全員がフルリモートでの事業運営をしているため、人事制度、評価体系、育成計画など、テレワークでも業務が進められるように整備は充実している。当社は、「未来を自分で選択できる社会をつくる」というビジョンのもと、会社を運営。したがって、テレワークという働き方を通じて、旦那様の転勤があっても、お子さんが生まれても、介護の必要性があっても…仕事を諦めることなく、仕事を継続できる環境を創りたいという想いで、実施。また、テレワークで、仕事の時間やエリアは自由であり、副業に関しても創業当初より解禁している。多くのメンバーが副業も行って、自分らしい生き方をしている。また、アドレスホッパー(特定の家を持たずに住む場所を転々とする)という営業メンバーもいる。人事はエルサレム在住。<https://note.com/micakozawa/n/ncdd722378b95>

テレワークの概要・特徴

・テレワーク制度の概要・特徴

日本以外に33か国で働くメンバーがいる。フルリモートかつ副業・複業もOK。

・テレワークの活用拡大や定着、効果的な運用のために工夫した点

・入社時にChatwork・Zoom・TimeCrowdのインストールを必須にし、安定したオンラインコミュニケーションがとれる体制

・信頼関係構築・組織活性化のため定期的にオンラインイベントを行っている。

・社員の働き方を「くらしと仕事」(<https://kurashigoto.me/>)というオウンドメディアで展開し、アドレスホッパーの社員、海外で子育てしながら働くママさん、1ターンで大分にて介護をしながら、森林セラピーも行う女性など、枠にとらわれない様々なキャリアモデルを定期的に公開。

・業務内・業務外のコミュニティを23個作り、「温かい繋がり」の中で心理的安全性を維持、またメンバーのノウハウの共有・新たなビジネスへ発展。

・テレワークでの長時間労働を防ぐための具体的な取組

TimeCrowd(<https://timecrowd.net/about>)という時間管理ツールで勤務時間を管理している。全スタッフの勤務時間をマネージャー含め管理職全員が見ることができるため、長時間勤務をさせない勤怠管理の透明化を実行している。また、1つのタスクに関して3時間以上TimeCrowdが動いていると、コミュニケーションツール「Chatwork」で全メンバーに通知が届くため、こちらも長時間労働の予防策に繋がっている。

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

・テレワークを導入したことによる経営にもたらした効果

・322人のオフィス代:約1000万円/月の削減(1坪3万円でシミュレーション)

・PC代・光熱費等のPC環境周り 約160万円/月の削減

・テレワーク導入にあたり、ICTの利活用、地方への移住や地方活性化等の取組や成果

・地方在住メンバー約193人(地方の雇用安定化へ貢献)

・ワーケーション×社会課題解決 in長野

おためしナガノ(<https://otameshinagano.com/>)に参画を決定。10月～11月に、「ワーケーション×社会課題解決」として、社長とメンバー1名で長野へ行き、現地の自治体と協力しながら、雇用の創出・テレワークの導入支援などを実施。

・対企業:働き手をテレワークで出来る長野県内・外の人とを接続

・対働き手:雇用をテレワークで出来る 長野県内・外の企業とを繋ぐ
+コワーキングオフィスの場も創出

・対自治体:長野県のブランディングアップへ貢献

・11月～12月は、長野の実績を元に、沖縄、東京、宮城などへも展開予定。

・その他テレワークの導入によって創出された社会的効果の事例

・外部の方も招いたイベント「バーチャル世界世界一周旅行」では最大1700人の視聴者を集客。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000011.000059127.html>

・子どもオンライン職場体験なども実施